



みなみの風

坂下南小学校
学校だより
NO. 159
R7. 9. 10
(文責: 校長 菅家 篤)

ドリーム & チャレンジ! ~あいさつ・はっぴよう・なかまとじぶん~

自己ベストの「裏側」

～町陸上記録会に臨む子どもたちへ～

5・6年生は、自己ベストをめざして陸上の練習に取り組んでいます。陸上競技の一つの魅力は、自分のベスト記録を更新する度に達成感を味わい、さらによい記録を出そうと意欲的に取り組めることです。

ただ、ベストを尽くすよりも言いわけを考えるほうが簡単です。しかも、ベストを尽くすという表側の裏側にもう一つの強さを必要とします。思うような結果が出なかった時、失敗した場合に、その結果を自分の実力として受け入れる強さを持つことができるかどうかです。そして、その結果を恥じないこと。「裏側」って大事なのです。

来週の町陸上記録会に臨む子どもたちに、次のことを話しました。

自分の出した結果は、その時の自分の“自己ベスト”。「ちょっと足が痛くて…」「もっと本気を出せば…」なんて言い訳は絶対にしないこと。

裏側のことを、人間の「内面」とも言いますが、大人の私も中々内面を磨ききれずにいます。子どもたちには、陸上競技を通して、技能だけでなく「裏側」(心)も磨いていってほしいと思います。

自分からっていいな ～リレーの自主練習～

写真は、町陸上記録会に向けて、朝のわずかな時間にリレーの自主練習に取り組む6年生の様子です。

リレーのバトンパス(バトンワーク)を身に付けるためには、それなりの練習時間が必要なのですが、来週の記録会までに与えられた練習時間は十分とは言えません。そのような状況の中、リレーチームの子どもたちは、メンバーの仲間と話し合い、自ら練習を行っているのです。

“自分から”何かをやろうとする子どもたちからは、何とも言えない清々しさを感じます。

“自分から”って、きっと自分自身にとっても、周りにもいい影響を与えるだろうな。と思います。そんな子どもたちを見ると指導にも力が入りますし、熱烈に応援したくなります!



バトンジョグでバトンの渡し方と受け取り方を確認する6年生



裏面に暗唱チャレンジ9月初旬の合格者の写真を掲載したのでご覧ください。今回掲載できなかった人は次回掲載します。

晴唱チャレンジ（9月初旬）

